

アシストコンサルティング / 江尻幸雄からの『2分で読切りニュースレター』

このニュースレターは名刺を交換させて頂いた方へお送りしています。不要な場合は空メールを返信頂ければ次回より停止いたします。この記事が皆様のお役にできれば幸いです。

今回のテーマは、、、『創業と創業塾』です

秋から冬にかけてのシーズンはセミナーや企業研修などが活発な時期でもあり、創業塾も各地で盛んに開催されています。今号では時代の背景を振り返ると共に、創業塾も振り返ってみたいと思います。

●20世紀末を迎えた頃の経済環境と創業

私が経営コンサルタントとして独立起業した2000年頃は景気の底で、多くの企業ではリストラの嵐が吹き荒れ、再就職支援会社も乱立しました(なぜ私がそのような中で創業したのかはご縁がある際にでもお話します)。それらの企業は今となっては存在していませんが、当時は大阪市内でも一等地のビルに事務所を構え、上場企業の50歳以上のリストラ社員を迎え入れていました。全ての再就職支援会社がそうなのかは不明ですが、その支援会社の人材コンサルタントは名ばかりで、訓練を受けていない素人・人的ネットワークもなし、新聞記事の求人広告の切り抜きを見せて終わり。結局、再就職した人は自力で何とかした人だけでした。まさしく混迷の時代でした。

中小企業ではもつとつらい状況であったと思われませんが、やがてそのような状況下で再就職とは別の選択肢として創業を目指された人が多かったように記憶しています。私自身も、過去の書類を見てみると、独立した翌年の2001年から創業塾の講師として支援する立場となりました。そして失業者対策の一環として始まった「創業塾」もかれこれ20年近く経ちます。この間、シニア向け、女性向け、外国人向け、ソーシャルビジネスなど対象が細分化されてきました。また、創業塾を受講される人の内容も変化してきていると思います。初期の頃の「こんな事業でもやっておこうか・・・」と切迫感と半分あきらめにも似た思いを吐露した人の姿が、今でも強く印象に残っています。

●「創業塾とは何か」の再考

通常業務である人財育成/組織活性化のご依頼とは別に、何度か創業塾のメイン講師として関与させて頂くことがありました。最近参加者から「創業って何? 創業塾って何?」と言う根本的なご質問を頂いたことがあります。

一つの回答として「まず“創業”は手段であり、目的ではない。創業塾は“生き様”を見つける場である。キャリアや知識が異なっても誰でもが取組める公平な機会」であると。では目的は何か。

「QOWL に沿った幸せを追い求める事」ではないでしょうか? それが出来れば創業以外の手段でも良いと思います。と言うと創業塾を否定していると感じられる人がいるかもしれませんが、それは逆です。できるだけ多くの選択肢を考えだし実行に移して行くには、「自己の整理」が欠かせませんし、“夢”自体の明確化が必要で、創業塾だからこそ学び得る事や提供できる事が多くあると思います(例えば上図“創業登山マップ”)。世にはノウハウ本やネットで情報が溢れています。近視眼的なモノの見方をしてしまうと、それらと差がない事しかお伝えできません。あの人材コンサルタントのようにはなりません。最後までお読み頂きありがとうございます。

